



工トモ敷来テ修理レケ
 ルニ○盗人ノ裁衣ヲ剥
 ントシツレハ盗人ノ尻
 ラフタト蹴タリツレハ
 其盗人ノ蹴ラル、マ、
 ニ俄ニ失ヌルナリ○僧
 正彼レハ黒ク装ヒツル
 男ナリト宣ヘハ人叢麻
 柱ニ上リテ見レバ麻柱
 ニ落セマリテ可動様モ
 ナクテト云ハ此所ニ
 一、ちろちろとゆゑ
 そのふみぢさ竹のあはれの
 音をきけりしとてあ
 らるよびけりしとてあ
 かきし

作具部云辨色立成云麻柱 阿奈三 奈比
 代実録第卅八元慶四年十二月四
 日右大臣基経太政大臣よち給小
 宣命曰政乎相安奈比助奉母久ノ奈利 叔
 とあまごあまひハ支るころり
 名づけしとてあまひ
 けむらぬとあまひのあまひのむら
 ふにおちりしとてあまひのあまひ
 めるあまひのあまひのあまひ
 いとあまひのあまひのあまひ
 さの友人とて丸とあまひのあまひ
 うけり

三

敏達紀 相計

懽 かの侍を 大炊寮の官人し
 ぐつ丸
 こやも貝とらんもおほしめとてだ
 ぢんわまきとらんとてゆあまのう
 ぢぞが池をひくもあまをせしむ
 せいほつとてた丸がまきやうこ
 れつとてあまれらもあまのあま
 づわくもあまのあまのあまのあま
 とあまのあまのあまのあまのあま
 一、九二十人のあまのあまのあま
 まらとてあまのあまのあまのあま
 聚首 ヒメコラハセテ おほりし 一、のあまのあま

竹取抄

夜去... 天智紀... 御服... 説死日...

古事記... 河... 御服...

よきんかたに...

ほろろ... 日本紀

はせ... 勅命を...

抄本

おほ... 生立... 生長万物...

竹取抄

はら... けり... せん... せん...

冠

之府其守門兵衛甚嚴白刃粲然望
 之如凝雪時三人皆止其下不得入
 天師引上皇起躍身如在烟霧中下
 視玉城崔峩但聞清香鵲下若萬
 里瑠璃之田其間見有仙人道士乘
 雲駕鶴往來若遊戲少焉步向前覺
 翠色冷光相射目眩極寒不可進下
 見有素娥十餘人皆皓衣乘白鸞往
 來舞笑於廣陵大桂樹之下又聽樂
 音嘈雜其甚清麗上皇素解音律熟
 覽而意已傳頃天師亟欲歸三人下
 若旋風忽悟若醉夢中廻尔次夜上

所下廿三

皇欲再求往天師但笑謝而不允上
 皇因想素娥風中飛舞袖被編律成
 音製霓裳羽衣舞曲自古洎今清麗
 無復加於是矣

小玉をなんむしらのらうあり
 よよあなんはそ界よそまうてさ
 〜〜〜

翁とそその因縁ありてさうくさ
 きまつせしよなもか
 いりハうくさななりなまはかの
 十五日にあのももの園よあさうくさ
 まうてらんどもはうさうらぬくまはか

竹取抄

なほのー 和名鈔云蔓
菁蘇敬本草注云蔓菁名和

なほのー 蔓菁の葉は竹の
中より入つて蔓菁の葉は
蔓菁の葉は蔓菁の葉は
蔓菁の葉は蔓菁の葉は
蔓菁の葉は蔓菁の葉は
蔓菁の葉は蔓菁の葉は
蔓菁の葉は蔓菁の葉は
蔓菁の葉は蔓菁の葉は
蔓菁の葉は蔓菁の葉は
蔓菁の葉は蔓菁の葉は

何乎多古事記用菘字
菘菁之子或菘子俱謂菘
種

菘の菘と云ふは蔓菁の葉
子と云ふは蔓菁の葉は
蔓菁の葉は蔓菁の葉は
蔓菁の葉は蔓菁の葉は
蔓菁の葉は蔓菁の葉は
蔓菁の葉は蔓菁の葉は
蔓菁の葉は蔓菁の葉は
蔓菁の葉は蔓菁の葉は
蔓菁の葉は蔓菁の葉は
蔓菁の葉は蔓菁の葉は

いづれに射殺さんら
 飛也ハアリをハリ
 今保もあつて
 外肆外肆 字彙既刑
 陳其尸曰肆

ををさうてあつちあつち
 仕計仕計 きつあつち
 人よふとよふ人よふと
 人よふとよふ人よふと

あつちあつちあつち
 今保もあつて
 外肆外肆 字彙既刑
 陳其尸曰肆

あつちあつちあつち
 今保もあつて
 外肆外肆 字彙既刑
 陳其尸曰肆

あつて人なりて
たふし人なりて
たふし人なりて
たふし人なりて

たふし人なりて
たふし人なりて
たふし人なりて
たふし人なりて

くわんわんわんわん
くわんわんわんわん
くわんわんわんわん
くわんわんわんわん

くわんわんわんわん
くわんわんわんわん
くわんわんわんわん
くわんわんわんわん

装束 飛車 順和名曰兼名苑注

云奇眩國人能作飛車後風飛行故

曰飛車 按ふが文山海經よりし

きり 羅蓋

あつて人なりて
たふし人なりて
たふし人なりて
たふし人なりて

竹取抄

服たふし人なりて
たふし人なりて
たふし人なりて
たふし人なりて

たふし人なりて
たふし人なりて
たふし人なりて
たふし人なりて

たふし人なりて
たふし人なりて
たふし人なりて
たふし人なりて

たふし人なりて
たふし人なりて
たふし人なりて
たふし人なりて

竹取抄

くわんわんわんわん
くわんわんわんわん
くわんわんわんわん
くわんわんわんわん

くわんわんわんわん
くわんわんわんわん
くわんわんわんわん
くわんわんわんわん

くわんわんわんわん
くわんわんわんわん
くわんわんわんわん
くわんわんわんわん

くわんわんわんわん
くわんわんわんわん
くわんわんわんわん
くわんわんわんわん

くわんわんわんわん
くわんわんわんわん
くわんわんわんわん
くわんわんわんわん

くわんわんわんわん
くわんわんわんわん
くわんわんわんわん
くわんわんわんわん

くわんわんわんわん

くわんわんわんわん
くわんわんわんわん
くわんわんわんわん
くわんわんわんわん

くわんわんわんわん
くわんわんわんわん
くわんわんわんわん
くわんわんわんわん

くわんわんわんわん
くわんわんわんわん
くわんわんわんわん
くわんわんわんわん

万十の傳、籠傳之後還觀
寄物多美

人間よりも、縁ありたる、
人送るも、
事れはい、
形見万葉集
記念遊仙

天人の中、
正れぬ衣い

酉陽雜俎、天人衣、
兒詩、
搜神記、
有、七女、
匍、往、得、一、女、
往、就、諸、鳥、
諸、鳥、各、飛、去、一、鳥、獨、不、得

竹取抄

去、男子、取、以、為、婦、生、三、女、其、母、後、使、
女、問、父、知、衣、在、積、稻、下、得、之、衣、而、飛、
去、後、復、以、迎、三、女、女、亦、飛、去、是、亦、
お、衣、の、類、な、
此、お、心、
ま、あ、
不、死、の、茶、
月、中、の、兔、茶、
異、域、志、曰、長、生、國、在、穿、胸、國、之、東、其、
地、有、不、死、樹、食、之、則、壽、有、赤、泉、飲、之、
不、老、云、張、衡、靈、憲、志、云、羿、得、不、死、
之、藥、於、西、王、母、嫦娥、竊、之、以、奔、月、將

竹取抄

易曰泣血漣
 如毛詩云鼠思泣血無
 言不疾 長恨歌云回首
 血淚相和流 万葉十六
 云昔有娘子字日櫻兒也
 于時有二壯子共批此娘
 子○兩壯子不敢哀慟血
 泣漣襟云云古云云
 ちのわらうくおつてふた
 のちの川ハハスルマツの
 名々こふあふれ

あれまかきー アハカノ
 此同類通
 中將 本の次中ねん
 中將 華族四位任之執柄

埃囊抄云なまよきくく目のあぬゆ
 血の涙らわし又ちあぬぬ又涙の
 わらうくあて血の涙らわぬぬ
 いづいづなをきく血の涙らわぬぬ
 とねのあふれ
 あれちたさくー文をよみてさうさう
 どはせんらう命をさしあんだら
 名々の何事ともようとなしと茶
 ともさうぞたてたさうあてでや
 らせり
 あのちたさくーあつねのちあふれ
 中ねんくひささくーさうさうわたりかく

竹取抄

息若二世源氏中納言之時兼之

大臣上達部 大臣宮中事
 一向統領之故云一上は
 孝徳天皇大化元年以阿
 倍倉橋蘇我山田石川廣
 為左大臣是始也
 上達部ハ官ハ宰相位
 三位以上をさす

花姫をさすてあひもかすなりぬるを
 ふくともさうは茶のほかよは文さ
 てすわらうあふれくあてさすてい
 られらるるあふれおささくーあ
 ぬぬあひらうぬぬさうさうさうさ
 上さすをさすさうさうさうさう
 ちのさうさうさうさうさうさう
 さうさうさうさうさうさうさう

都良香富士記曰富士山者在駿河
 國峯如削成直聳屬天云々 焦氏筆
 乘曰日本國名倭國東北數千里有
 山名富士又名蓬萊國中最高山三

竹取抄

はあもちくく

あつ年のなま

あつ年のなま

あつ年のなま

あつ年のなま

面皆海一朶直上頂有火焰秦時徐福入海求藥終止此至今子孫稱秦氏

氏

はあもちくく

あつ年のなま

あつ年のなま

あつ年のなま

あつ年のなま

あつ年のなま

あつ年のなま

あつ年のなま

世系下

あつ年のなま

あつ年のなま

あつ年のなま

あつ年のなま

あつ年のなま

あつ年のなま

あつ年のなま

竹取抄

あつ年のなま

あつ年のなま

あつ年のなま

あつ年のなま

あつ年のなま

あつ年のなま

あつ年のなま

あつ年のなま

あつ年のなま

あつ年のなま

あつ年のなま

昌喜撰云は抄注を原氏他
 なむりつ後あれどひつとを
 ちりし原氏縁合の事なり
 竹取物語の縁合の事なり
 みまの縁合の事なり
 河海抄云巨勢相見一伝云
 巨勢金岡相見同人也云
 如高名録者相見ハ於先代
 也云云花鳥餘情云巨勢相
 見ハ金岡子云金岡ハ寛
 平之時之人為其子則可為
 貴之同時人云云弄花抄云
 金岡子也除自成文抄云廣
 岐小目從八位下畫師巨勢
 朝臣相見昌泰二年二月除
 目執筆時平公云順の化
 なるハ相見也云云
 幸依ハいづつハ昌泰
 二年の辰辰云云
 かくかくハ相見也云云
 かくかくハ相見也云云

竹取物語縁起
 竹取物語ハ何人れおらるるや本
 校詳なり

契沖河内系も其傳聞を考うと
 其作者を論せむ古人の傳説も
 原氏の所作といふことあり
 人なりていふことあり

順の略傳を考ふと
 弘仁天皇
 左京大夫 攀コバル
 定サダメ始賜姓源 至イタ從四
 大納言 順ノリ從五位上
 順ノリ能登守
 順ノリ能登守
 順ノリ能登守
 順ノリ能登守

源下四十一

順の化といふ後ハ非か
 河海抄云つづつ河海ハ原氏
 内侍のむすめ云云それハ
 上云云云云云云云云
 一傳なり云云云云
 而云云云云云云云云
 夫のおや云云云云
 ちりし原氏縁合の事なり
 手か古抄に云々此時代
 抄云云云

契沖河社云竹取物語ハ原氏も
 右竹取と名付つたハ萬葉集第十
 六云竹取偶逢九箇神女贖ユカシ近狎之
 罪作歌昔有老翁號曰竹取翁也此
 翁季春之月登丘遠望忽值者美之
 九箇女子也百嬌無儔花貌無止云
 是竹取ハだつと云ふことあり
 して名をききしと云ふことあり
 顯昭ハ百壽祝

昔本今昔物語卷廿八之今昔。天皇ノ御代ニ一人ノ翁有ケリ竹ヲ取テ籠ヲ造テ要スル人ニアタヘテ其功ヲ取テ世ヲ渡ケルニ氣籠ヲ造ランカタメニタカムラニ行竹ヲ切ケルニ篁ノ中ニ一ノ光アリ其竹ノ節ノ中ニ三寸ばかりナル人有。翁是ヲ見テ思ハク我年来竹取ツルニ今カハル物ヲ見付シルヲヨロコヒテ片トニハ其小人ヲ取今片手ニハ竹ヲ荷テ家ニ歸テ妻ノ姫ニ篁ノ中ニテ此女子ヲコソ見付タレト云ヒケレバ姫モ悅テ初ハ籠ニ入テ養ケルニ三月ハカリヤシナヒケリ例ノ人ニナリヌ其子ヤウマウ長大スルマニ世ニナラビナク端正ニシテ此

採竹翁ト云者アリ宅後ノ竹林ニシテ鶯ノ卵子ヲ得タリ養テ子トス少女トナリテ身ノカタハラテラス百媚アリ見人斷腸聞者心ヲ動スコレヨリシテ青竹ノ中ニ黄金出来テ貧翁忽ニ富人トナリニケリ英華ノ家好色ノ道月卿爭先雲客重光艶言ヲツクリ戀懷ヲ抽ツ時ノ帝殿聞ニオヨヒテ御狩造ノ由ニテ姫ノ竹亭へ幸アツテ鶯ノ契ラムスビ松ノ齡ヲヒキ玉フ竹姫後日ヲ契リ申ケレバ帝空

竹取下四

世ノ人トモ覺ザリケレハ翁姫イヨクコレヲカナレニ愛シテ傳ケル間ニ此世ニ聞エタカク成ニケリ而ル間翁亦竹ヲ取ランガ為ニ篁ニ行ヌ竹ヲ取ニ其度ハ竹ノ中ニ金ヲ見付タリ翁此レヲ取テ家ニ歸ヌ然レハ翁忽ニ豊ニ成ヌ居所ニ宮殿樓閣ヲ造テ其レニ住ニ種々ノ財庫倉ニ充テ満テリ眷屬衆多成ヌ亦此兒ヲ諸テヨリ後ハ事ニ觸レテ思樣ナリ然レハ弥ヨ愛シ傳クノ無限シ而ル間其時ノ諸ノ上達部殿上人消息ヲ遣テ假借レケルニ女更ニ不聞リケレハ皆心ヲ盡シテ云セケルニ女初ニハ空ナル雷ヲ捕ヘテ將來レ其時ニ會ハムト云ケリ次ニハ優曇華ト云花有

ク返玉フカタヘノ天是ヲレリテ飛車ヲイダレテ迎テ天ニ昇リメ鶯姫帝ノ御契ノサスガニ覺テ不死ノ藥ニ歌ヲ書副テ留テゲリ其歌ニ云
 今ハトテアアノ羽衣キル時ゾ君ヲアハレトオモヒイデヌル
 帝御返歌
 逢コトノ泪ニウカブ我身ニハレナヌ藥モナニカハセン
 勅使智計ヲメグラシテ富士ノ嶺ニノボリテ此藥ヲ燒アゲリト

ケリ其レヲ取テ持来レ然
ラム時ニ會ハムト云ケリ
後ニハ不^レ打ヌニ鳴ル鼓ト
云物有其レヲ取テ得サセ
タラン折ニ自ラ聞エムナ
ド云フテ不^レ會ザリケレバ
假借スル人々ノ状形ノ
世ニ不^レ似^レ微^レ妙ナリケルニ
孰^レテ只此ク云ニ隨テ難^レ堪
キ事ナレドモ旧ク物知タ
ル人等ニ可^レ求^レキ事ヲ問ヒ
聞テ或ハ家ヲ出テ海邊ニ
行^レ或ハ世ヲ捨テ山ノ中ニ
入^レ此^レ様ニシテ求ケル程
ニ或ハ命ヲ亡シ或ハ不^レ返
来ヌ輩モ有ケリ而ル間天
皇此^レ女ノ有^レ様ヲ聞シ食シ
テ此^レ女世ニ並^レ無ク微^レ妙シ
ト聞我^レ行テ見テ實ニ端
正ノ姿ナラバ速ニ后トセ
ムト思^レテ忽ニ大臣百官
ヲ引^レ將テ彼翁ノ家ニ行幸

アリケリ既ニ御^レマレ着
ルニ家ノ有^レ様微^レ妙ナル事
王ノ宮ニ不^レ覺ズ女ヲ召出
ルニ即參^レリ天皇此^レヲ
見給ニ實ニ世ニ可^レ譬^レ者
ク微^レ妙ナリケレバ此^レ我^レガ
后ト成^レラムトテ人ニハ不^レ
近^レ付ザリケルナメリト喜
ク思^レシ食テヤガテ具^レテ
宮ニ返^レテ后ニ立^レテムト宣
フニ女申サク我^レ后トナ
ラムニ無^レ限^レキ喜ヒ也トイ
ヘ氏實ニハ己人ニハ非^レヌ
身ニテ候也ト天皇宣ク汝
子然^レラハ何者^レ鬼^レカ神^レカ
ト女ノ云ク已鬼ニモ非^レヌ
神ニモ非^レヌ但^レ己^レヲハ只
今空ヨリ人来^レテ可^レ迎^レキ也
天皇速ニ返^レテ給^レヒ子ト
天皇此^レヲ聞給^レテ此^レハ何
ニ云フ事ニカ有^レラム只今
空ヨリ人来^レテ可^レ迎^レニ非^レヌ

仍テ此山ヲ不死山ト云ケルヲ郡
ノ名ニ付テ富士ト申ケルナリ上
詞林採
葉抄

國名風土記曰甲斐國トハ昔ハ富士
山ノ麓ニ竹取ノ翁トテ竹ヲ種テ
アキナヒケル者アリ彼翁園生竹
林ニシテ鶯ノ卵ヲ見付タリ暖メ
置クソノ^レチ程ヲヘテ是ヲミレ
バ容顏優ナル寵姫トナリケリレ
カルニカレラ養子トスタケレ後
ニカノ翁ガ田作りケル時ニ暇ナ
カリレカバ養母ノ訟ヘテイハク

抄取下四卷

隙ナキ時ニシモ何トカヤ手助ト
ナリ玉ハザルトナサケナク云ケ
レバ鶯姫コレニ怒ヲナレテ富士
山ノ三子ニ示^レリテ岩ヲ蹴破テ
湯ヲ走^レラカレ田ツクル人ノ所三
十焼石トナル件ノ祖父母ハニケ
テ白根ガ三子ヘユキ又彼田力ケ
ル馬モニケテ信州駒ガ三子ニス
三ケル其駒主ヲワスレズ常ニナ
レレカハカノ馬ヲコ^レ口ニ入^レテ
飼^レユエナリ此トコロヲ飼國ト
云レカルヲカナガキニ甲斐トカ

此乃... 風土記ニ馬ヲ心ニイレテ
飼レニ王飼ノ國ト云レテ
カナカキニ甲斐ト書トイ
ルハ

今按本朝逸史引類聚三
代格曰天長四年十月甲
辰大政官符置甲斐國牧
官○此國所領收信濃
國同頃年蕃息漸多繫創
歲倍云云是亦云々付
會此注云々古事記云
開化帝皇子日子坐王之
子沙本毗古王者日下部

連甲斐國造之祖云景
行紀云自日高見國還之
西南歷常陸至甲斐國云
創國と云々事たり一伝
山向此國なり峡ハ加比
故名と云々れといふ

醍醐以灌柰根日灌之到至明年
實乃甘美如王家柰而樹邊忽復生
一瘤節大如手拳日增長梵志心
念忽有此瘤節恐妨其實適欲斫去
復恐傷樹連日思惟遲廻未決而節
中忽生一枝心指上向洪直調好高
出樹頭去地七丈其杪乃分作諸枝
周圍傷出形如偃盖華葉茂好勝於
本樹梵志怪之不知枝上當何所有
乃作棧閣登而視之見枝上偃盖之
中乃有池水既清且香又有衆華彩
色鮮明披視華下有一女兒在池水

拾取下四七

中梵志抱取歸長養之名曰柰女至
年十五顏色端正天下無双宣聞遠
國有七國王同時俱來詣梵志所求
婢柰女以爲夫人梵志大恐怖不知
當以與誰乃於園中架一高樓以柰
女著上出謂諸王曰此女非我所生
自出於柰樹之上亦不知是天龍鬼
神女耶鬼魅之物今七王俱來求之
我欲與一王六王當怒不敢愛惜也
女今在園中樓上諸王便共議有應
得者便自取去非我所制也於是七
王口共諍之紛紜未決至其夕夜萍

莎王從伏竇中入登樓就之共宿明
 晨當去奈女白曰大王幸枉威尊接
 近於我今復相捨而去若其有子則
 是王種當何所付王曰若是男兒當
 以還我若是女兒便以與汝王即脫
 手金銀之印以付奈女以是為信便
 出語羣臣曰我已得奈女與共一宿
 亦無奇異故如凡人故不取耳萍莎
 軍中皆稱萬歲曰王已得奈女六王
 聞之各還去畧めちよ奈め男子哉
 生やうよ又稱と休醫王著婆とよ
 たり又廣博物志といくもろし

義興といふは又呉越といふ人ありわ
 うりしてあつた此史もかゝる其は荆
 溪といふ川ありしある時川をさして
 大なる螺をばらりて取つて來り
 おくよそそわらうとてさ女とたはれ呉
 越よりさびくわの妻とて人々を
 くらへ螺婦といふしあづののむこと
 をうりていふもしてはるく思ひ共
 堪をせめていふそ又坂城もといふお
 あなりそれはさそよまのつははは
 妻なまじやうは呉越といふつてこ
 是れ熱い螺婦といふはさそよま

しうぞ。熱田の神美女と化して。唐
 此をを乱し給く。高麗より失
 ひたりし時。さあひより白きい
 て。東より去り。その時を熱田
 の神體とす。と云し。此説深し。
 といふも。尾張風土記曰。富樫山有
 神号白鳥。神日本武尊所化。白鳥也
 云。さうね。あつこの神體ハ。云々
 云々。事。四き。して。堅瓠素と云
 云々。物。も。此。ハ。白鷺の精なり。故
 其爪甲赤銅の。と。なりし。と。云
 白鷺と云ふこと。なる。行。を。此。事。よ

(神祇下事)

く。合。く。長恨歌。よ。も。さ。業。之。よ。い
 ま。く。く。易。き。如。し。あ。つ。事。ハ。い。は
 こ。に。化。して。異。聞。を。を。ら。む。ふ。り
 こと。也。

法華 藤原 像

作版抄

我ふ〜〜
わの〜え〜
り〜ん〜
志〜人〜
よ〜の〜
布〜
すの〜
ま〜
の〜
る〜

抄

さるを如とわきまかたをのこれ何ぞとあは
しむいさるるを如とわきまかたをのこれ何ぞとあは
しむいさるるを如とわきまかたをのこれ何ぞとあは
しむいさるるを如とわきまかたをのこれ何ぞとあは
しむいさるるを如とわきまかたをのこれ何ぞとあは
しむいさるるを如とわきまかたをのこれ何ぞとあは
しむいさるるを如とわきまかたをのこれ何ぞとあは
しむいさるるを如とわきまかたをのこれ何ぞとあは
しむいさるるを如とわきまかたをのこれ何ぞとあは
しむいさるるを如とわきまかたをのこれ何ぞとあは

竹取物語注跋

先兄伯鳳著竹取語注其病劇之作也使弟翔
与翼隨口録之盖出于暗记者居多云始成未
及校閱而逝矣入江子昌喜恐其書不傳也更
為校之再四而亦補其說之未備即其所補則
別標出焉以與伯氏之所為不相混也噫伯氏
即世翼与尋逝今也穀年而其書全成感愴
曷可已會書肆是清上梓乃與入江學課再校
以與之伯氏而育其謂之何書中之所引

萬曆雜書寬文大成 全一冊

六十卷三世桐相生有氣之氣日操曆次書本八

萬寶用文示童鑑 全一冊

七之詩歌筆法秘傳名要五卷才藝周文事七外書

拋入直枝芳 八江玉蟾著 五冊

始二百瓶の國をゆきし跡録せしむる書掛板の

琴曲琵琶北海 寛政外歌 全一冊

番組一二三改をきく一巻の下日酒子けつてん書と

百怪 夢卜輯要指南 全三冊

占法 夢卜輯要指南 全三冊

占夢早考 全一冊

差らるる夢をいふは多し古まを思の考と香

本林羅萬象要字海 全一冊

三階子一日用重寶のまじ集文字数字を生かす取用

百萬節用寶來藏 全一冊

新修字の数を以て日本國を津國と申能成書鑑

大綱節用玉篇大成 全一冊

森羅萬象不求人 全一冊

寶曆節用集 全一冊

早引大節用 全一冊

文翰節用集 全一冊

宴樂小韻 全一冊

懷中小謹神鏡 全一冊

三味線ちりり草 全三冊

歌三味線柳北園を生てつをききし撰れは松糸抄

同 子引草 全三冊

降臨理独替古 全三冊

大三重ゆりあしはかり外降りりさみせん理松

同 後篇 全一冊

将暴名將鑑 古今名人の橋方 全四冊

同 曲尺 他抄 三冊

同 祕傳抄 他抄 三冊

同 力草 三冊

同 大失教 日 三冊

同 指南 全三冊

同 萬葉集 他抄 一冊

同 萬葉集 他抄 一冊

常と讀湯多々益之書

讀草 全十冊

南嶺子 桂秋齋先生著 全四冊

同 遺稿 右同人著 全四冊

秋齋問語 右同人著 全四冊

神明漢法 右同人著 全二冊

和漢故事 全五冊

辨辨通書 太宰氏のあそびを
とく 全三冊

曾我實録 曾我兄弟討敵討の
始末をたりのり 全十冊

九列法將軍記 時宗大友の戦
をたのむ 全五冊

保元平治物語 平治の事
近刻 全三冊

漢楚軍談評林 漢楚の人物を
評判と 全五冊

馬孔歌 たりのり
をたのむ 全三冊

嵐火庵實録 佐野元歌
の事 全三冊

弘法大師法傳記 弘法大師の
事 全十冊

大和廻り 大和の事
をたのむ 全二冊

嘶雛形 後編
全十冊

精口東方朝 五冊
精口福徳利 五冊

同 扇形的 五冊
同形記 五冊

同 身鏡子 五冊
同形記 五冊

同 吐舌後川 文々合評
全五冊

和歌狂歌連仙之書

和歌 異名分類抄 和歌の
事 全四冊

弁舌抄 古書を
引いて 全二冊

唱曲辨疑 唱曲の大成を
標して 全一冊

拍子筈 内音番
拍子の事 全一冊

謡字引 内外
謡曲の中 全二冊

頭附笛字引 笛二百三十番
笛の上下長短の
事 全部三冊

玉篇 字貫節用集 全一冊

神易選 新井白翁著
撰集本十二本
全二冊

日本の上は考ふる... 地をたのむ... 地をたのむ... 地をたのむ...

幼女身守 一冊
幼女の事 全一冊

女諸禮後録 二冊
同百人一首入 同上

女篋 全三冊

百人一首小倉文庫 一冊

同 浪花海 一冊

同 和分海 一冊

同 都大全 一冊

同 富貴臺 一冊

同 千代左 一冊

同 大成 一冊

投筭品ト筌 全一冊

延喜式神名帳 全部五冊

鯨志 南紀如水軒撰述 横陽旭山先生閱 全一冊

いざらうららの月類異状さうさうの凡十余種をいざらうて繪家さうらうらうて物れを洋うさうてさうさう物さうらうてさうさう

諸職画鑑 全

北海道全書 全四冊

插花四季技折 庸軒流 呼牛先生著 全五冊

とこれしこれのさうさう花飾のさうさうとさうさうぬ者の人さうさう

ねがひのさうさう

さうさうのさうさう

繪本頼光一代記 全五冊

木曾義仲記 全五冊

近江源氏 一冊

初學用文 一冊

百人一詩画譜 全一冊

萬寶重寶記 全一冊

都會筭用集 全一冊

さうさうのさうさう

天明四年甲辰夏四月

江戸日本橋三丁目

前川六左衛門

京都六角通御幸町西入

小川多左衛門

大阪南久太郎町心齋橋筋

柳原喜兵衛

書林

